

製品・サービス動向-国内

■ブイキューブ：オンライン診療/服薬指導
ブース「テレキューブクリニック」を発表

(4月23日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>)
(東京都港区)は、企業の健康経営推進と医療過疎地域の医療アクセス向上を同時に実現する、防音個室型オンライン診療ブース「テレキューブクリニック」を発表した。



テレキューブクリニック（ブイキューブ）



テレキューブクリニック（ブイキューブ）

テレキューブクリニックをオフィス内に設置することで従業員は通院のための外出時間を削減できる。また、医療過疎地域に設置することで、地域住民に質の高い医療サービスを提供することが可能になる。さらには、商業施設内に設置することで、来店客に対する新たな価値提供と集客力向上につながるという。

ブースには、ディスプレイ、スマホ/タブレットスタンド、空気清浄機、血圧計、体温計が設置されており、オンライン診療/服薬指導サービスも一体で提供される。内科・皮膚科・婦人科・精神科など多様な診療科に対応し、診療予約からオンライン診療、処方、薬の受け取り、配送手配まで、すべてをスマートフォンやパソコンで完結できるようになっている。今後、オンライン診療受信施設への対応、多言語対応（日・英・中・韓）の予定となっている。

本製品は、企業の従業員が移動不要で、病院・クリニック・薬局に行くことが可能となり、プレゼンティーズム・アブセンティーズムの解消のひとつとして健康経営推進を目的に、福利厚生サービスとしての利用が可能という。また、2025年の医療法改正で新設される予定のオンライン診療受信施設に対応（予定）し、自治体の良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制構築のための行政サービスとしても展開していくという。

日本では、医師の地域偏在の問題が、長きにわたり認識されており、解消に向けた議論、法改正などが進んでいるものの、厚生労働省の調査や令和6年1月の医師偏在指標によると、適切な医療へのアクセス格差が解消されていない。医師が少ない地域では人口10万人あたりの医師数が全国平均の半分以下となっており、住民が適切な医療を受ける機会が制限されている現状がある。

また、一方で、企業においては、プレゼンティーズムやアブセンティーズムといった従業員の健康管理が重要な経営課題となってきている。プレゼンティーズム(presenteeism)とは従業員が職場に出勤しているものの、何らかの健康問題によって業務の能率が低下して

いる状況を指す。アブセンティーズム(absenteeism)は従業員が病気や健康問題により欠勤してしまう状態を指す。これらは客観的な損失把握が困難だが、実際には企業経営に与える損失額は、医療費よりも大きく、アメリカをはじめ諸外国でも注目されている。

多忙なビジネスパーソンが通院のために業務を中断することは難しく、健康管理が後回しになるケースが少なくない。こうした社会課題に対し、ブイキューブは、どこにでも設置でき、手軽に医療へアクセスできるテレキューブクリニックを開発した。

ブイキューブは、今後、2026 年末までにテレキューブクリニックを全国 500 か所に設置することを目標としている。また、多様なオンライン診療プラットフォームと連携し、利用者がかかりつけ医や専門医と円滑につながる環境を整備する。

■ZVC Japan：「Zoom Phone」と「Zoom Contact Center」におけるトールフリー番号の日本提供を開始

(PRTIMES:4月17日)

ZVC Japan 株式会社 (<https://www.zoom.com/ja>) (東京都千代田区) は、クラウド型電話サービス「Zoom Phone」およびクラウド型コンタクトセンターサービス「Zoom Contact Center」において、4月1日から、Zoom 自社回線のトールフリー電話番号の提供を開始し、同日よりポータビリティサービス(以下、トールフリー番号ポータビリティ)の国内提供も開始した。

同社は、これまで日本市場において、Zoom Phone と Zoom Contact Center で利用可能な電話番号の種類を順次拡充してきた。2021年に日本で Zoom Phone の一般提供を開始して以降、2022年には日本のユーザー向けに 0ABJ 番号(東京 03、大阪 06 等で始まる地域性を持った固定電話番号)の提供を発表し、IP 電話番号と固定電話番号の選択が可能になった。その後、2023年には固定電話番号ポータビリティサービスの提供を開始し、現在ユーザーは、他の電話サービスで利用中の 0ABJ 番号

を Zoom Phone に移管しての利用が可能となっている。

Zoom Phone と Zoom Contact Center のユーザーは、今回のトールフリー番号ポータビリティの提供開始により、他の電話サービスで利用中のトールフリー番号(0120、0800 で始まる着信課金番号)を Zoom Phone および Zoom Contact Center に移管して利用できるようになった。業務上引き続き同じ電話番号を利用することができるため、番号変更に伴う顧客への周知や、各種資料、印刷物の修正といった作業負担の軽減やコスト削減につながるとしている。

導入利用動向-国内

■ NEC ネットエスアイ：国内最大規模の「Zoom Phone」のシステム環境を構築

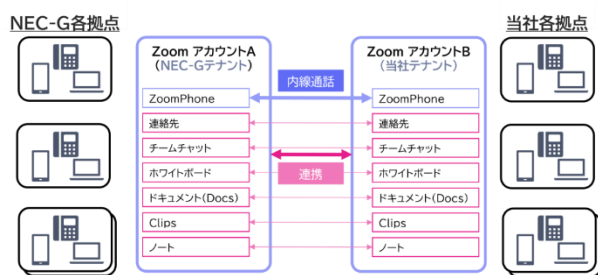
(4月17日)

NEC ネットエスアイ株式会社 (<https://www.nesic.co.jp/index.html>) (東京都港区) は、NEC グループの従業員約 11 万人が「Zoom Phone」を利用できる環境を構築し、順次移行を進めながら3月より運用を開始した。

NEC ネットエスアイは長年にわたり音声系ネットワークの構築・運用に携わり、音声品質や電話環境に関する豊富な実績とノウハウを積み重ねてきた。それらを活かし、近年では Zoom Phone など、音声に関するクラウドサービスの提供も進め、お客様のコミュニケーションの DX 実現に寄与している。加えて、同社は日本全国に拠点を構え、全国対応可能なサポート体制を構築している。こうした強みを活かすことで、本納入をスムーズに完遂することができたという。

NEC グループは社内 DX による企業変革として、最先端の技術やサービスをいち早く実践し、そこで得た活きた知見をお客様や社会に還元する「クライアントゼロ」戦略のもと、さまざまな取り組みを進めている。今回の NEC グループへの Zoom Phone の導入はその一環という。なお、クライアントゼロとは、最先端の技術やサービスをいち早く実践し、そこで得た活きた知見をお客様や社会に還元するという同社の考え方。

Zoom Phone は、クラウドサービスならではの強みを活かし、他のデータやクラウドサービスとの連携を通じ、利便性や生産性、コミュニケーションの質の向上につなげることが可能。また、マルチテナント機能を活用することで、11 万人規模でのコミュニケーションを円滑にする。マルチテナント機能はグループ会社間で契約が異なる場合でも、組織情報のリンクや内線通話が可能となるため、複数のグループ会社や拠点を持つお客様でも、コストや運用・管理の最適化を図ることができるとしている。



NEC グループで利用される Zoom Phone
(NEC ネットズエスアイ)

NEC ネットズエスアイは今後、Zoom Phone と多様なクラウドサービスとの連携を進め、蓄積したデータをプロセス改善や業務効率化に活かすことでコミュニケーションを変革し、お客様の働き方改革や競争力の強化に寄与していくとしている。

セミナー・展示会情報

<国内>

■Q-SYS NV シリーズ ビデオエンドポイントを活用した設計

開催：5月16日(金) 16:00～ ※60分予定

会場：オンライン

主催：QSC

詳細・申込：<https://lnd.qsc.com/jp-apac-2025-05-16-DesigningwithQ-SYSNVSeriesVideoEndpoints.html>

■ブイキューブセミナー情報 (5月)

「もう音漏れに悩まない！個室ブースの防音体験会!!」

「Zoomの電話って何?」「ビジネス電話改革！クラウドPBXでどう変わるのか?」「ウェビナー開催入門」など

会場：オンライン/オンデマンド/東京

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー (5月)

会場：オンデマンド

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

オンライン会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■X（旧：Twitter）（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dtc-forum）

<https://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記 URL で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

お知らせ（重要）

ー配信システムの変更について：

長年配信システムのひとつとして使用してきました、まぐまぐですが、すでにご案内の通り、まぐまぐでの配信を2024年10月末号にて終了いたしました。今後は、CNA レポート・ジャパンのサイト、X（旧ツイッター）

ター)、facebook ページ、dte-forum メールリストでの配信とさせていただきます。

この定期レポートをまぐまぐで受信されている読者の方は大変お手数ですがいずれかの受信方法へご変更お願い致します。

>CNA レポート・ジャパン サイト

<https://cna.jp>

>X(旧ツイッター)

<https://x.com/cnareport>

>facebook ページ

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

>メールリスト (dte-forum)

<https://cna.jp/cna/dteforum-ml.html>

■CNAレポート・ジャパン 2025年4月30日号

ホームページ: <https://cna.jp>

お問い合わせ: inquiry@cna.jp